

双葉町が「復興まちづくり委」当面は「仮の町」作り

福島原子力発電所事故で埼玉須賀市の旧騎西高校に役場機能を移転している福島県双葉町(福島第一、第二原発立地)は、十六日、同校で「第三回復興まちづくり委員会(委員長 三井所清典・芝浦工業大学名誉教授)を開催した。

同会議では、八月から九月にかけて福島市、東京都、柏崎市、加須市で開いてきた「七千人の復興会議」(延べ四百三十三名参加)で出された千六百六十八件の町民意見を整理・分類した中間整理が報告された。

①「語り継ぎたい双葉町の暮らしについて」(三百五十四件)では、自然が豊かである、空気がきれい、海の幸・山の幸が充実している、人情味あふれる町、近所つきあいのある町などが、町の特色として挙げられている。

②「避難生活について」(百五十七件)では、賠償を早く進めてほしい、賠償が納得できない、ローンの支払いが心配、高速道路の無料化を継続してほしい、仮設住宅の生活が不便である、この先どうすればよいか不安がつのる、原発事故によって家族・近所・友達がバラバラになってしまっているなどの問題が列記された。

③「住みたい場所(仮の町を含む)について」(百二十四件)では、いまの双葉町には住めない、一日も早く仮の町をつくらしてほしい、仮の町は希望しない、町民が何か所にも集まることが大切、一か所がよいが現実的に不可能、仮の町は複数があつてよい、復興公営住宅を早く作ってほしい、双葉町に近い風土・気象条件のところがいい、福島に帰りたい、福島には帰れない、安全に安心して子供が暮らせる町がよい、家族がバラバラなので一緒に住みたいなどの希望が出された。

④「仕事・産業について」(百六件)では、双葉町の名産品を復活したい、若者が仕事のできる環境が必要、双葉町の人がいる場所で事業を再開したい、農業を続けたい、島には帰れない、安全に安心して子供が暮らせる町がよい、家族がバラバラなので一緒に住みたいなどの希望が出された。

⑤「教育について」(四十八件)、「復興への思いについて」(四十四件)、「医療・福祉について」(三十九件)、「放射線の影響について」(三十一件)、「双葉町の復興・復興について」(二十八件)などとなっている。お墓を再建したいとの希望も出されている。

また会議では、三井所委員長・鈴木浩副委員長(福島大学名誉教授)の試案として、今後の審議の進め方についても提示された。

そこでは、①計画は短期的な課題(避難生活の改善等)、中期的な課題(本格的な生活再建等)、

新しい産業を興すことが必要、原発以外に産業がなかったことは反省すべきなどといった意見が出された。

その他では、「復興会議の運営等に関する意見」(八十二件)、「残したい双葉町の歴史・文化」(七十三件)、「情報共有とコミュニティの維持」(五十七件)、「除染・中間貯蔵施設について」(五十三件)、「教育について」(四十八件)、「復興への思いについて」(四十四件)、「医療・福祉について」(三十九件)、「放射線の影響について」(三十一件)、「双葉町の復興・復興について」(二十八件)などとなっている。お墓を再建したいとの希望も出されている。

また会議では、三井所委員長・鈴木浩副委員長(福島大学名誉教授)の試案として、今後の審議の進め方についても提示された。

そこでは、①計画は短期的な課題(避難生活の改善等)、中期的な課題(本格的な生活再建等)、

も耐える高い走行性能を有し、人の立ち入れない災害現場で状況調査や機材運搬などを行う。現場の状況に応じ、通信方法や操作性にも改良が加えられつつあり、特に、危険性の高い閉鎖空間の活動で、二次災害の防止上からも今後のさらなる応用が期待される。

また、部門別表彰で、今回より新設された「ロボット大賞」(主催：経済産業省、日本機械工業連合会、審査委員会、委員長 三浦宏文・工学院大学顧問)の審査結果がこのほど発表され、本紙関連では、「原発対応ロボット『Quince/Rosemary』」(千葉工業大学)が「社会貢献特別賞」を受賞した。

「原発対応ロボット」は、放射線量の強い環境下の福島第一原子力発電所事故対応で活躍中のモタリクロボットの、段差やカレキを含む悪路に

三井所委員長・鈴木浩副委員長(福島大学名誉教授)の試案として、今後の審議の進め方についても提示された。

そこでは、①計画は短期的な課題(避難生活の改善等)、中期的な課題(本格的な生活再建等)、

千葉工大「Quince」特別賞

市場創出への将来的な貢献が期待される国内のロボットを表彰する「ロボット大賞」(主催：経済産業省、日本機械工業連合会、審査委員会、委員長 三浦宏文・工学院大学顧問)の審査結果がこのほど発表され、本紙関連では、「原発対応ロボット『Quince/Rosemary』」(千葉工業大学)が「社会貢献特別賞」を受賞した。

「原発対応ロボット」は、放射線量の強い環境下の福島第一原子力発電所事故対応で活躍中のモタリクロボットの、段差やカレキを含む悪路に

「憂国の原子力誕生秘話」

後藤 茂 著

福島の第一原子力発電所の事故以来、多くの著書が世に出された。しかしそのほとんどは事故の衝撃に煽られるように、原子力の危険性に根ざした論を展開している。本来グローバルで長期的視点に立つて論ぜられるべき原子力政策が、冷静さを欠いたなかで、短絡的に決められていくことに暗澹たる思いがある。

本書はわが国の原子力開発の扉を開いた先人たちの、それを受け継ぎ育ててきた人々の国を思う情熱と誠意を説いて、今日熱く議論を戦わせたい。そのほもとどろどろと原爆を投じたものである。それを社会党の議員を出発点として著者自身が歩み、体験してきたものだけに、随所にエピソードが挟まれ、読み易くもあり、説得力もある。仁科芳雄、伏見康治、茅誠司といった学者が、中曽根康弘、松前重義として著者といった政治家など多岐にわたる。なんとも執筆者の機軸は「原子力」を切り拓いてくれた先人へ、泉下でどのような見られるだろうかと思つと、夜も眠りえず、起き上がって筆を取ったのである」と記されている。八十七歳になられた著者の熱い思いが、行間からあふれ出る名著である。たかさんの人びと、とりわけ若い人たちに読んでいただきたい。(石塚 記)



「除染特別地域」II国が除染を実施する地域

「除染特別地域」II国が除染を実施する地域

「原発対応ロボット」は、放射線量の強い環境下の福島第一原子力発電所事故対応で活躍中のモタリクロボットの、段差やカレキを含む悪路に

「憂国の原子力誕生秘話」後藤 茂 著

原産新聞の記事検索

http://www.jaif.or.jp/

原産協会が発行する「原子力産業新聞」では、1999年11月からの記事データベースから即座に目的の記事を検索できるサービスを、原産協会会員、原産新聞購読者を対象に行っています。何回利用しても無料です。

また、一般の方にも2006年度からさかのぼって1955年9月25日の創刊号までは、紙面のPDF版が当協会HP「電子図書館」からご覧いただけます。PDF版のキーワード検索も年度単位でご利用いただけるようになりました。

■対象：原産会員、原産新聞購読者
ご利用にはユーザー名(ID)、パスワードが必要です。
電子メールで購読者コード、組織名、部署名、お名前、ご連絡先電話番号を明記してお申し込みください。折り返し、IDとパスワードを返送します。

■お申込み：information@jaif.or.jp
■お問合せ：一般社団法人 日本原子力産業協会 情報・コミュニケーション部 (TEL03-6812-7103)

【著作権】一般社団法人 日本原子力産業協会

放射線利用事業の振興と 原子力の利用に係る知識及び技術の普及を振興するために

- ◆放射線・原子力利用の普及事業
 - ・技術誌「放射線と産業」、専門書等の刊行
 - ・「放射線プロセスシンポジウム」の支援
- ◆照射サービス事業
 - ・ガンマ線・電子線照射：材料の耐放射線性試験、材料改質
 - ・中性子照射：シリコンの半導体化
- ◆技術移転事業
 - ・産業界への中性子利用技術移転
- ◆原子力研修事業
 - ・原子力人材育成のための研修の実施
 - ・教員免許状更新講座
 - ・原子力・放射線に関する研修会の企画・開催支援

一般財団法人 放射線利用振興協会
http://www.rada.or.jp

本部・東海事業所：〒319-1106 茨城県那珂郡東海村白方白根2-4 TEL 029(282)9533
高崎事業所：〒370-1207 群馬県高崎市総貫町1233 TEL 027(346)1639